

新風

SHINPU

前川おさむ後援会会報

vol. 2号

平成3年8月1日

提言「菊池市の活性化のために人口増加対策を…」

平成2年12月定例議会一般質問より
前川おさむ議員

平成2年、国勢調査の調査結果が発表されましたが、菊池郡市を見ますと、誠に残念なことに本市だけが人口減で他の七町村は全部人口増であります。本市の中でも特に人口減がひどいのは限府地区であります。その中でも、上町にいたっては、わずか5年間で100人も減少しています。このことは、限府中央線区画整理事業の必要性を如実に物語っております。このままの状態では、おそらく数年のうちに人口は、大津、菊陽、西合志、合志の4町に追い越されてしまう事でしょう。菊池郡内の町より、市である菊池市の人口が少なくなるといのは、菊池市民としての誇りをも失わせ、市民の精神的なものにも大きな影響を与えるのではないかと思います。人口の多いところがいいところだとはけつして思いませんし、そのことが市民の幸せに直接つながると思いません。しかし、既に自治体の財政力を表す指標である財政力指数も、先に述べました4町より本市は少ないわけでございます。ぜひ具体的な人口増加策を考えて頂きたく、私なりの考え方で3つの角度から次に述べさせていただきます。

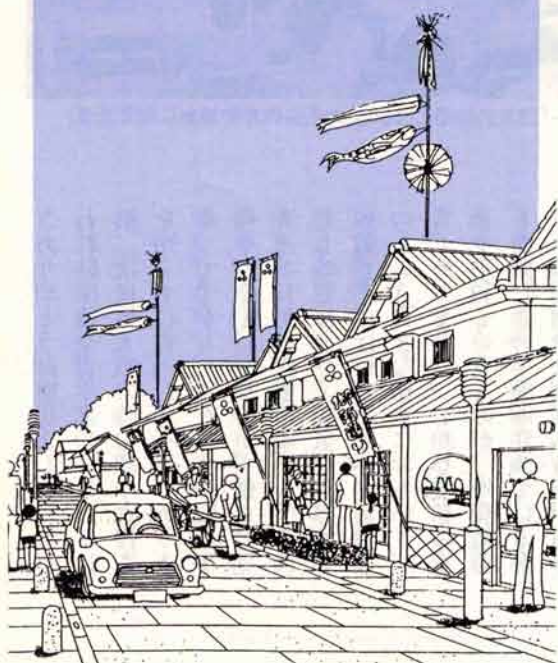
まず企業誘致についてですが、市民の雇用の場の確保をして若年労働者の流出防止という観点からも、本市の人口増加策の主力でありました森北工業団地も完売した今、今後の企業誘致について、その受け皿づくりが必要でしょう。

第2点は住宅誘致についてですが、わたしは常々、企業誘致と同様の考え方で住宅誘致をしてはと考えておりました。森北工業団地があのような大工事を行っても坪3万円台で売却できるのなら、それを宅地に置き換えて考えれば、いまだき坪3万円の宅地などちよつとお目にかかれなと思います。もちろん、宅地の場合、道路、公園、上下水道など工場用地より費用はかかりますが、本市はテクノポリス計画の定住圏にも位置づけされているわけでもありませんし、基本的な考え方として企業誘致のような方法

の行政主導型で住宅の誘致を行えば、もっと直接的に人口を増やせると思います。

第3点は、開発行為についてですが、大きな視点で考えれば、企業誘致も住宅誘致も開発行為だと思っています。以前話がありました河原のゴルフ場ももちろん開発行為ですし、竜門ダムの建設も水没地区や残存の皆様に多大な影響を与えた大規模な開発行為です。しかし、恐らく現在の菊池市で竜門ダムとその関連工事がなかったなら、今回の国勢調査で人口2万8千を割っていたと思いますし、経済的な波及効果は計り知れないと思います。竜門ダムも平成6年に完成するわけですが、その後の菊池市の状況を想像すると誠に寒けがする思いです。現在、本市にもいろいろな形の開発行為の話があると聞きますが、市民の利益につながり本市の公共の福祉に反しないことであれば受け入れるべきだと思えます。確かに開発行為にもいろいろな問題をはらむ場合もあります。環境保全などはその際たるものでしょう。しかし秩序と節度のある開発であり、市民の利益と公共の福祉に反しないことなら、市民の生活や本市の財政にも大きな活力を与えてくれるでしょうし、そのことが人口の増加にも直接的につながってくると確信します。

菊池市活性化イメージ図



を守れますか!?

部長を努める熊本県防衛協会
「日本の防衛と国際情勢を考
防衛協会青年部とは我が国の
ける青年の集まりです。



第八師団師団長 松島悠佐氏と前川議員

第二次世界大戦後、約45年とい
うごく短い期間に、日本は経済大
国として復興しました。その主な
原因は3つあると思います。まず
第一は、日本人が勤勉であったこ
と。そして第二は、日本の政治が
安定しており、政府自民党の政策
が大筋でまちがいがなかったこと。
最後に、日本が日米安保条約を基
本として、米国との協力関係で、
国の防衛が出来たことです。しか
しながら、今、日本は国際社会の
中で、なにをなすべきかという新
しい大きな問題にぶつかっていま
す。

防衛協会青年部では、この問題
を市民の皆様と考えていただく機
会を作るために、「日本の防衛と
国際情勢を考える集い」を開催し
ました。

当日は約250名の市民の方が
集り、講師としてお招きした、在
福岡アメリカ領事館首席領事 エ
バンス・J・R・リビア氏、陸上
自衛隊第八師団、師団長 松島悠
佐氏の講演を熱心に聞いていまし
た。また、来賓として荒木修菊池
市長もお見えになり、大変盛り上
がりのある講演会となりました。
以下は講演の要旨です。

市民レベルの議論を

前川収支部長― 本日は大変御
多用中のなか、「日本の防衛と国
際情勢を考える集い」に御集り頂



前川議員―「日本の防衛について、市民レベルで真剣に考えよう」

きありがとう御座居ました。われ
われ防衛協会青年部のメンバーは、
第二次世界大戦の時の罪や悲惨さ
を知らずに育った青年達でありま
す。ですから、現在の我が国の平
和や安全というものが、幾多の先
人達の苦勞や代償の中から生まれ
たものではなく、空気や水の如く、
無償で手にはいるあたりまえのも
のという大きな錯覚におちいりが
ちでありました。しかし現在の安
全や平和というものが、外交努力
と防衛によって成り立っているこ
とという事は明白な事実であり、湾岸
戦争は、その事を物語る如実な例
となりました。また、湾岸戦争は
世界の経済大国である日本が、国
際社会の中で大きな責任と役割を
分担する義務があることも証明し
ました。今後日本が、現在の安全
と平和そして繁栄を維持するため
に、防衛意識の高揚と国際社会の
中の日本について、われわれ市民
レベルで真剣に考える必要がある
と考え、本日の講演会を開催した
わけでありました。どうぞその主旨
を御理解頂き、意義ある講演会と
なりますようよろしく御願いた
します。

国際情勢について

エバンス・J・R・リビア主席
領事― 現在の国際情勢は、湾岸
問題をはじめ、各地で紛争が続い
ているという現状です。東西冷戦

あなたは日本を

去る6月11日(火)前川議員が支
青年部会菊池支部主催による
「考える集い」が開催されました。
防衛問題を真剣に考え、行動



エバンス・JFR・リビア主席領事と前川議員

の終結が近いとよくいわれますが、少なくとも日本を含めた極東地域ではまだまだ遠い道のりの様です。ソビエトは軍備を縮小すると言っておりませんが、それは、ヨーロッパ地域での事であり、極東地域では、まだまだ先の事のようにです。日本とは北方四島の問題を含めて、安心して居る状況ではないと判断されます。また、朝鮮半島では、北朝鮮が大変危険な存在であり、日本とも依然として国交もなく、国際社会の孤児になりつつあります。それに中国もまだまだ政情不安定の様です。以上述べましたように、日本を取りまく環境は決して安心して居る状態ではありません。我が国アメリカは、日米安保条約を基盤とし、日本を、グローバルパートナーとして相互理解を深めてまいりました。今後も両国の関係は良好に推移するものと信じております。

湾岸戦争の教訓について

松島悠佐第八師団長「湾岸戦争は、我が国に多くの問題を提起しました。とくに自衛隊の派遣については、国会の論争をはじめとする多くの議論を巻き起した事はまだ記憶に新しいと思います。日本が国際的な平和協力の為に物だけではない、人的貢献が必要であるという事は世論も認める所です。しかし残念ながら、我が国



松島師団長「湾岸戦争の教訓について」



リビア主席領事「国際情勢について」

ではまだまだ法的制度の整理も出ていない状況です。我々自衛官は、人的派遣で湾岸へ行くと命令ができれば、当然行きます。しかしその為には幾つかの問題を解決していただきたい。それはまず命令系統と目的を明確にすること。当然戦争へ行けば、たとえ後方支援といえども生命の危険がともないます。命を賭けて仕事をするには、やはり明確な目的とその為の使命感が必要であります。それに立場もはっきりしていただきたい。自衛官なのに民間人としていけといわれても、命令系統がはっきりしませんが、大変危険な地域へ中途半端な立場では行けないという事です。また、自衛官に対する保障制度をきちんとしていただきたい。自衛官の主力は20代、30代の青年達です。そして彼等のはとんどが妻や子供をもつ一家の大黒柱であります。彼等が後顧の憂いなく職務を遂行できるように、その保障をしっかりとやっていただきたいということです。

自衛隊は、国の守りの為に日夜努力を重ねております。自衛官が誇りをもって職務を遂行できますよう、皆様の御理解と御協力を御願いたします。

『前川議員さん有難う』



村田区提防嵩上げ推進委員 川口 孝夫

村田区は昔から毎年洪水にみまわれ大変な苦勞を重ねて参りました。それが昭和25年頃菊池川河川提防工事により立派な村田提防が建設され熊本をおそった昭和28・6・26大洪水にも安心して暮らせるようになり大変感謝している次第です。

ところが河川工事が着々と進む今日、昭和57年の大洪水はあわや提防をあととして越えようとした。区民総出て警戒に当り、村田区上流の提防を越えた濁流は国道を横切つて下へ流れ災害をまぬがれました。其の頃から区長は代表と共に市役所や建設省等に提防嵩上げについて陳情を続けて参りました。そして昨年七月二日の大洪水がやって参りました。区民総出て警戒に当りましたが十年前の大洪水のように村田区上流の提防を越えた濁流は村田区にも進入し同時に基場附近の提防も濁流が越流し村田区域に流れ込み始めました。

用意した土囊も濁流に流されて打つ手もありませんでした。増水した頃、一人の青年が雨合羽も着ず傘もささずぶぬれになつて提防上をじっと見つめていま



完成した村田区の提防

した。その青年が市議員前川收氏でありました。前川議員が此の危険な状態を見て市役所にたぐちに連絡を取られ、一刻を争う事態だったので自らの判断で碎石を取り寄せ濁流で危険な中をダンプカー1数台に碎石を運搬していただき提防の上に直接ダンプして水をせきとめられました。そのお陰で濁流を防ぐことが出来ました。若しこの臨機応変の処置がなされなかつたら村田区はどうなっていたか解りません。前川議員のとられた勇氣ある行動に対し深く感謝する次第でございます。

その後村田区としましては、提防嵩上げ推進委員を選定し委員長を中心に、市役所、建設省国会議員に陳情致しました。その交渉に当つて前川議員は自分の仕事も構わず我がこと以上にお世話して戴きお陰をもちまして危険箇所の一部の嵩上げが約十年がかりで完成致しました。区民一同心から感謝申し上げる次第でございます。

●前川おさむプロフィール

- 生年月日/昭和35年7月9日
- 血液型/O型
- 主な役職/菊池市文教厚生常任副委員長
自由民主党熊本県連青年部長
菊池市商工会理事
菊池市商工会青年部理事
菊池青年会議所委員
日本青年会議所第五政策室委員
熊本県防衛協会青年部菊池支部長
- 経歴/県立鹿本高校 昭和54年卒業、九州測量専門学校土木建設科 昭和56年卒業、現在カルフォルニアコースト大学日本校経営学部の通信教育で勉強中、東海測量設計社 昭和56年入社、昭和59年退社、株八方建設 昭和59年入社、株キクチゴルフセンター 昭和59年創立、菊池市議会議員 昭和63年初当選(1期)、菊池市議会議員 平成元年当選(2期)



秋祭「新宮さん」

『議員より一言』

長い梅雨が明け暑い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

「新風」第2号となりました。創刊号に載せました、「大平記」も無事放映が終り一安心聞くとところによると、日曜日の8時45分というゴールデンタイムに、民放でCMを流せば約2千5百万円もかかるそうです。「大平記」のふるさと菊池」を見てくれた全国の視聴者の中で、一人でも多く菊池市に興味をもつていただけたらと思います。

議会は常に市民にオープンであるべきだという考えで、平成2年3月定例会で、議場にテレビカメラを設置するよう提言しました。9月か12月の定例会から、市役所のロビーで会議が放映されると思います。ぜひ一度見に来てください。尚4月より委員会が変わり、文教厚生常任委員会の副委員長になりました。市民生活に一番関連の深い委員会ですので、ご質問やご相談などございましたら何なりと御申しつけ下さい。皆様の声をお待ちしております。

前川おさむ後援会

事務所：〒861-13 菊池市赤星2114-1(八方建設内)
TEL 0968・24・2171 FAX 0968・24・2111

自宅：〒861-13 菊池市片角119-2
TEL 0968・24・0471